## 三　実行委員編集後記

今年度小中学校ＰＴＡ連合会より推薦を受け実行委員会に参加しました。子育て世代である三十～四十代の私達が、戦争体験者から直接話を聞いたり、写真や本を通してリアルに戦争を感じる事が、次の世代に平和の尊さを伝えていくためには大変重要であることを再認識しました。

講演会や写真展の折には、貴重なお話を聞く機会を得て、原爆が残酷な兵器であることをもっと世界の人々に知ってもらわなければと強く思いました。この戦争体験記録集も平和教育の資料として、子ども達にも読んでほしいと思います。問題解決を武力紛争以外の方法で実現できる平和な世界を願い続けます。

武蔵野市立小中学校ＰＴＡ連絡協議会　根本　美奈子

戦争を語って下さる体験者が、身近にいなかった私にとって、どの体験も、多くの人に一刻も早く「この事を伝えたい！」と思う皆さんの心が強く伝わってくる文章でした。そしてそのどなたもが、こういう事が「二度とないよう」にと、締めくくっている事は、本当に肝に銘じておくと共に、声を大にして伝えなくてはと思いました。この悲惨さに目を背ける事なく、文章を寄せてくださった方に、改めて感謝したいと思います。

武蔵野市コミュニティ研究連絡会　小餅　友子

私は武蔵野市老人クラブ連合会からこの平和事業実行委員会に参加しています。

老人クラブの仲間はその多くが後期高齢者で戦地銃後を問わなければ、いずれも戦争体験者です。この体験記にもクラブの仲間が四人以上参加しています。今まで公に戦争体験を語ることのなかった仲間が、もうギリギリのところで戦争体験を語りだしました。この体験記を見て、まだ話さなかった多くの高齢者が人生の最後に体験を話してくれることが期待されます。

武蔵野市老人クラブ連合会　井部　文哉

戦争を体験していない私にとって、戦争体験のお話を聞くことは本当に貴重な機会でした。武蔵野市は大規模な空襲を受けたということを、私は最近になって初めて知りました。正直なところ、「空襲」と聞いてもどれほど悲惨なものなのか想像をすることができません。どれほどの人が亡くなったのか、どれだけの人が怪我に苦しんだのか、数字や文章で教わることはあっても、実体験として私の中に存在しないからです。

戦争とは、体験している人にとっては決して忘れることのない出来事であると実際に話を聞くことで強く感じました。戦争を体験していない私にとって、戦争体験を聞くことは私に「戦争は過去のことではなく、現在でも人々の心に残り続けるものである。」と教えてくれているようでした。

戦争の記憶は、実体験をされた方にとっても私達にとっても「過去」になりつつあります。しかし、この記憶をいつまでも語り継いでいくことは、戦争を体験しない世代の私達の使命であると私は思います。

NPO法人ACTION　蟹澤　茉莉子

多くの方から体験記が寄せられ、びっくりすると共に、貴重な体験を、今残しておかなければと思われている方がまだまだ、沢山おられるのだと思いました。

戦後六十五年、戦争・空襲体験者は高齢になられ、記憶も薄れてこられています。しかし、当時の話をされているうちにだんだん、昔の記憶が呼び起こされます。今回も話をしていただいた体験者の方が、二人亡くなられたそうですが、少しでもお元気なうちに記録に残す必要を痛感しています。ぜひ続編の計画を立ててほしいと思います。

武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会　秋山　昌文

『平和事業実行委員会で「戦争体験記」を発行したい。』と云う話が昨年秋に出ました。市報で原稿の募集をする、書く事は苦手だけれどと云う人には聞き取りをテープにおさめる。インタビューの準備、推薦者の聞き取りなど委員会で話し合いました。また、聞き取りに立ち合わせて頂き、戦争の酷い話に心を打たれ、一月十四日に実行委員会で行なわれた戦争体験座談会に出席、フィリッピンでの戦場体験のお話等本当に胸をしめつけられます。生と死は紙一重です。被爆者の中にも学徒動員で朝起きて熱があり建物疎開作業に出席しなくて助かった人、それぞれ運命の別れ道は決められていたのでしょうか。大変立派な本が出来そうで良かった、皆が願うことは只一つ「争いのない核をもたない平和な世界を」と云う事のみです。

素晴らしい街に住めて良かった。誇りのもてる街に住めて良かった。行政と住民が一帯となって事を運ぶと云う素晴らしさに出会えて喜びを感じております。

この本を各学校に配布されたく、若い世代の方達に戦争の大変さ、醜さを感じて頂き度く、戦争はしかけた方もしかけられた方も何も得ることはないと云う事を知って頂きたいと思います。

武蔵野けやき会（原爆被害者の会）　柴田　フミノ

戦争があった幼いころ、父は四国の尾根といわれる高知県の東津野村尋常小学校の校長として赴任していた。山に囲まれた狭い空を、飛行機が飛んで行くのを見たが、怖い思いはしなかった。物のない時代で、屋根の苔をとり毛系で巻いて毬をつくって遊んだ。今回、貴重な戦争体験の聞き書きをして、体験者から伺う話は、本当に真に迫り、心に迫ってくるものがあった。この真実を次世代の子どもたちに伝えなければいけないと思っている。

公募委員　大竹　桂子

「悲惨な歴史の証言を次世代につなぐ架け橋に！」今回の活動を通して戦争体験者からの凄惨を極めた戦地体験談や戦禍の犠牲となった大勢の人々のご無念は深く心に刻み込まれた。これからは戦争を知らない次の世代に誤りなく語り継いでいくことが私達に課せられている責務であろうと痛感した。「二度と同じ過ちは繰り返してはならない。」そして「青い空と子供の笑顔」を守る為に、一緒に力を合わせましょう。ご協力くださったすべての皆様に心から感謝いたします。

公募委員　前谷　悟

私は戦後生まれで、全く戦争のことは知らない。父に戦争の話を聞こうとしたが、ついには教えてくれないままに亡くなった。

今回、何人かの体験談を通して、父が何故私に言わなかったのか、少し謎が私に解けたというよりも理解ができた。それにしても、今でも「えっ!?」と脳裏から離れることができない文言がいくつかある。それにしても戦争は恐ろしい。

今、改めて二度と戦争には巻き込まれたくないと誓った。

公募委員　島村　欣志

武蔵野市民の戦争体験集の編集委員として、多くの原稿に接しましたが、戦争とは如何に惨いものかと改めて思い知らされました。私も、台湾で小学生五年の時、空襲の連続で空襲警報が間に合わず、艦載機P39の機関砲の爆撃のものすごい音に押入れのふとんの下で震えていたことを思い出します。

昭和三十年、新都営アパートに入居しましたが、中島飛行機の跡地で、空地には鉄くずがいっぱい埋もれており、建物のパイプの一部で造った小さなモニュメントが団地の入り口に残されています。また、中島飛行機の変電室と

言われる建物が唯一残っており、今、アパートの建替えで取り壊される計画ですが、歴史の重要な記念として残すように都と市に要望している所です。

公募委員　平田　昭虎

公募委員として最初の委員会に出席して直感した事は、この委員会は「ワイワイガヤガヤ」と意見が飛び交い委員長や市の担当職員は相当苦労するぞとの思いでした。そこで勝手に「ワイガヤ」委員会と名付けておりました。

その委員会も瞬く間に任期の一年が経過しその集大成としてこの記録集が完成しました。内容については人それぞれの意見があるでしょうが「戦争を無くそう」との思いは皆同じだと思います。何かのお役に立てば幸甚です。

関係者の皆様御苦労さまでした。

公募委員　稲葉　和高